

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後等デイサービス はるの樹		令和7年5月9日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	昨年10月に事業所を立て直し、スペースの確保を行った。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6	1	職員数については、十分に人数を確保している。評価の「いいえ」については、少ない利用人数に対して職員の人数が多すぎるとした評価。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	昨年10月に事業所を立て直し、バリアフリー化を実現した。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	個別の部屋は用意され、必要に応じて使用できるように準備している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	0		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	集計後には、必ず職員で情報を共有する機会を設けている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	7		第三者による外部評価を前向きに検討していく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	昨年度、研修の形態に合わせた手当や交通費の改定を行い、手当の増額を行った。研修の受講推進につなげている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	ホームページで公表し、公表した内容をプリントし、配布も行った。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	毎月、職員全員で会議を行い、計画に沿った支援がなされているか確認と情報共有を行っている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	毎月、職員全員で会議を行い、計画に沿った支援がなされているか確認と情報共有を行っている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	毎月、職員全員で会議を行い、計画に沿った支援がなされているか確認と情報共有を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	イベント、レクリエーションの内容を記録し、固定化されないよう工夫している。また、振り返りを行い、今後に生かすようにしている。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	毎日必ず、サービス提供開始前と、サービス提供終了後に申し送りを行っている。	学校休業日は、終了後のみとなる為、代替的な方法を検討する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0	毎日必ず、サービス提供開始前と、サービス提供終了後に申し送りを行っている。	学校休業日は、終了後のみとなる為、代替的な方法を検討する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	記録は必ず残すことを徹底して行っている。昨年度より、手書きから電算に移行し、より効率的に記録ができるようになった。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	毎月、モニタリング会議を行い、職員で情報を共有。見直しに必要な判断も、その際に行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7	0		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	1	学校との情報共有がスムーズとなるよう、送迎の際に先生方とのコミュニケーションを取るよう心掛けている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	1		児童によって、積極的に情報共有と相互理解に力を入れている場合とそうでない場合がある為、改善を検討したい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	3	今年度初めて、保護者、小学校の協力を得て、中学校進学の子の児童の情報を、担当者会議という形で提供ができた。	提供の準備はできているが、中学校進学の際には、活用していただく機会がほぼ無い為、引き続き、学校へ提案を行う。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	3		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	3		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6	0	管理者が参加している。町内の通所支援事業所からなる連絡会にも参加し、イベント等の実施につなげている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	送迎時の申し送り、連絡帳、SNS等、電話、定期的な面談など、たくさんの機会を設け、その情報共有に努め、共通理解につなげている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	3		家族の対応力の向上を図ることに対して、情報の提供はおこなっているが、研修の機会については、まだまだ努力が必要。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	契約時の説明だけでなく、ファイリングした資料を、いつでも確認ができるようにし、提供している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0		

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	0	コロナ禍終了後より、毎年度、家族交流会の実現ができています。	きょうだい同士の交流する機会については、実現できる方法を検討する必要がある。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	定期的に通信を発行することが継続出来ている。	HPやSNS等を活用することには、その分野の知識を深める必要がある。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	鍵をかけた書庫を用意しており、毎日施錠し、保管している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	2	通所支援事業所連絡会に所属し、その会においてイベントを計画し実施。地域住民を行事に招待することが実現できている。	地域住民については、限られているため、検討が必要。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	策定し、実行している。通所支援事業所連絡会で、事業所同士での協定を結ぶこと、より効果的な訓練が行えるよう提案を行った。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0		
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	2		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	ヒヤリハットの報告件数をあげることを意識することで、些細なことでも報告することが定着し、大きな事案となる前に予防、対策ができています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	委員会の設置により、定期的な研修が実現されている。また、意識を高めるための工夫もなされている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0		